

機関番号：33937

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520398

研究課題名(和文) 西洋人編纂資料と日本刊行資料による粵語語法の通時的研究

研究課題名(英文) A Study of Early Cantonese Grammar in Western and Japanese Materials

研究代表者

竹越 美奈子 (TAKEKOSHI MINAKO)

愛知東邦大学・経営学部・准教授

研究者番号：50340401

研究成果の概要(和文)：日本資料の整理と紹介に関しては、主として、日本国内の図書館(天理図書館など)とインターネットで情報を収集し、国際学会で紹介した。さらに、同時代の西洋人刊行資料も含めた目録を作成し、所蔵図書館名と図書番号を記載して「早期粵語文献目録(稿)」(『早期粵語研究1』所収、5-50頁)として刊行した。資料に反映した粵語の研究としては、主に、類別詞の“ti”が結構助詞に由来するものであり、変化の動機として再分析が考えられることがわかった。

研究成果の概要(英文)：As a result of this study, *A Catalogue on Early Cantonese* was published in 2011. This catalogue includes Cantonese materials compiled between 1800 and 1950, by Western and Japanese people with the names of the libraries and book numbers. Our analysis on Early Cantonese materials suggests that the origin of a classifier “ti” is a linking particle and a motivation of this change is reanalysis.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：中国語学

科研費の分科・細目：人文学・言語学

キーワード：粵語、広東語、漢語方言文法、日本刊行粵語資料、早期粵語資料

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 十九世紀～二十世紀初頭の香港粵語を記述した資料は以下の三種類に大別できる。

(一) 西洋資料(宣教師などによって編纂された教科書)、(二) 日本資料(日本および旧日本の植民地で日本人学習者を対象に出版された教科書。戦争中の1930年代と40年

代前半に多く出版された)、(三) 第二次世界大戦終了後、香港で広東語を学ぶ学習者のために香港人が中心となって編纂した教科書。

このうち、(二)の日本資料は、時代的に(一)と(三)の欠落している期間を補う重要な資料でありながら、その多くが日本国内のみに存在し、天理大学中国語学科研究室篇(1952)『日本現存粵語研究書目(稿)』など

の目録も国内向けであったため、国外ではほとんど知られていなかった。

本研究の目的は、これらの資料を整理し、語料として十九世紀の粵語研究に役立てるとともに、目録を作成して、内外の研究者に紹介することであった。これは日本人粵語研究者の責務とも言えるものであり、国内外の学術界への貢献もおおいに期待できるものである。

(2) 香港が英国植民地となり、国際貿易港として発展し、多くの人口が流入した結果、香港粵語は十九世紀にダイナミックな変化を経験した。したがって、同時代の言語の変化を調べて現代粵語語法への研究へとつなげることには文法の通時的な研究にとって大きな意義がある。また、この十九世紀粵語の研究の多くが、西洋人編纂資料のみを語料として用いているという現状から、国際的にあまり知られていない日本資料を紹介し、これを語料として用いた研究を示すことは日本人粵語研究者の責務とも言える。

## 2. 研究の目的

### (1) 資料の収集、整理と紹介

既存の目録を参考に、19世紀から20世紀に日本で刊行された粵語資料のうち、主に会話書を対象として、資料の収集・整理・国内外への紹介をする。

### (2) 資料に反映している粵語の研究

各資料が反映している当時の粵語を研究し、19世紀から20世紀にかけての通時的変化を明らかにする。

### (3) 通時的変化のメカニズムの解明

先行研究の成果をふまえ、日本刊行粵語資料、西洋人による早期粵語資料、現代粵語の三つを語料として用い、語法の通時的変化の過程や条件を調べ、変化の動機を解明する。

## 3. 研究の方法

### (1) 資料の収集、整理と紹介

既存の目録を参考に、インターネットを活用し、場合によっては直接図書館に出向いて調査をして、国内外の図書館に所蔵されている同時代に日本で刊行された粵語資料のうち、主に会話書を対象として、目録を作成する。目録には可能な限り、所蔵図書館名と図書番号を記載する。それにより、研究者が所蔵図書館を訪問し、すぐに資料請求と閲覧ができることを目指す。

### (2) 資料に反映している粵語の研究

日本資料を中心に、各資料が反映している

当時の粵語を研究する。主として類別詞、結構助詞、指示詞などを対象とする。ただし、日本資料については、戦争中に短期間で編纂されたものも多いので、語料として用いるに値する資料かどうか、精査が必要である。

### (3) 通時的変化のメカニズムの解明

先行研究の成果をふまえ、語法の通時的変化の過程や条件を調べ、変化の動機を解明する。一般言語学での成果も積極的に利用する。

## 4. 研究成果

### (1) 研究の具体的な成果

① 日本資料の整理と紹介に関しては、一定の成果を得ることができた。主として、日本国内の図書館（天理図書館など）とインターネットで情報を収集し、国際学会で紹介した。

（「Cantonese Teaching Materials in the Early 20th Century in Japan (20世紀初頭の日本刊行広東語教科書)」—国際粵方言研究会、香港—と「Some Grammatical Features of Cantonese Texts in the Early 20th Century in Japan (20世紀初頭日本刊行広東語教科書の文法的特徴)」—国際中国言語学会—、ボストン）

② さらに、同時代の西洋人刊行資料も含めた目録を作成し、所蔵図書館名と図書番号を記載して「早期粵語文献目録（稿）」（『早期粵語研究1』5-50頁）として刊行した。

③ また、ロンドン大学図書館で、西洋人刊行資料の中で代表的な資料の一つである「Cantonese Made Easy」の初版本を調査し、各版本の相違をまとめて、「J. Dyer Ball 著『Cantonese Made Easy』各版本の異同—“個”と“的”を中心に—」（『東邦学誌』）として発表した。

④ 天理大学中国語学科研究室編『日本現存粵語研究書目（稿）』などの目録をもとに、20世紀初頭の日本刊行広東語教科書約70冊の目録を提示し、そのうち張源祥(1942)『広東語の会話』など3冊を取り上げて、日本語のひらがなと片仮名を用いた独自の工夫で広東語の声調と有気音・無気音の発音を表記していることを指摘した。

⑤ 現代標準広東語の統語構造では、所有を表すマーカーとして、類別詞と構造助詞の二つの形式がある。なぜ、二種類の統語形式があるのかについて従来議論されることはなかった。小文では、現代広東語下位方言のデータと照らし合わせて、1) 類別詞は広東語に固有の統語形式であること、2) 構造助詞は

北方官話との言語接触によって獲得された借用形式であり、3)再分析によって用法が拡張した、という見解を示した。

⑥ “在”から“喙”への語彙交替の過程に関して、動詞の“在”が先に“喙”に交替し、その後前置詞の“在”が“喙”に交替したと指摘した先行研究の成果をふまえ、新たに、前置詞の中では、動作の起点を表す用法の“在”が先に“喙”に交替し、その他の用法の交替がそれに続いて起こったことを指摘した。

⑦ 類別詞の“ti”に関して、2件の論文を発表し、国際学会で2回の口頭発表をした。結論は、この類別詞が結構助詞に由来するものであり、変化の動機として再分析が考えられるというものである。変化の動機として、内部的には粵語に特有のあいまいな統語形式に加えて、類推、再分析など、言語に普遍的な現象が認められ、外部的には周辺言語との言語接触も考慮しなければならないことがわかった。

## (2) 本研究成果の位置づけ

本研究の成果の一つである「早期粵語文献目録(稿)」は、原始資料のみならず、原始資料に関する研究論文も収録し、可能な限り所蔵図書館名と図書番号を記載することを旨とした。国内外の約60名の漢語・漢語方言・粵語研究者に配布した。この種の目録はこれまでも皆無ではなかったが、所蔵図書館名が記載されていること、多くの日本資料が取り上げられていることなどから好評であった。今後はさらなる目録の充実につとめ、ホームページ等で公開して世界中の研究者がすぐに更新した情報にアクセスできるようにしたい。

## (3) 今後の展望

### ① 目録のさらなる充実

本研究の成果のひとつとして刊行された目録—「早期粵語文献目録(稿)」(『早期粵語研究1』5-50頁)は国内外で一定の評価を得たと自負しているが、目録作成の過程で、この分野の文献の数が非常に多いとを改めて認識し、より深い調査の意義についても再認識するに至った。今後はこれに加筆修正してより充実した目録にして国内外に公開することが課題である。特に、日本国内にある資料については、詳細で完全な目録の作成を目指す。インターネットによる検索と、実地調査の双方が有用である。

### ② 三種類の資料の総括

粵語の歴史資料には、西洋資料、日本資料、香港資料の三種類がある。日本資料の概要がわかりつつある現在、それぞれについて、資料の特徴を総括することも新たな課題として浮かび上がった。

### ③ 二十世紀香港粵語の総合的な研究

以上で整理した文献資料を用いて、また本研究で明らかになった十九世紀粵語と比較しながら、二十世紀粵語の変化の過程を詳細に調べることも新たな課題である。たとえば、どの資料にも記載があるような基本的な事項、発音、指示代名詞、疑問詞、疑問文の形式、助動詞、常用の前置詞などについて、各資料の記述を一覧にして比較することも有用である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 横田文彦・竹越美奈子(2010)「早期粵語文献中表示動作起始点的“在”与“喙”(早期粵語文献の動作の起始点を表す“在”と“喙”)」,『開篇』Vol. 29 (東京:好文出版) 85-89頁(総5頁),平成22年9月、査読有。
- ② 竹越美奈子(2011)「粵語歴史文獻研究概観——以十九世紀粵語資料的準確性為中心——」『早期粵語研究1』51-57頁(総7頁)平成23年3月、査読なし。
- ③ 竹越美奈子(2011)「試論早期粵語中的“的”」『早期粵語研究1』58-70頁(総13頁)平成23年3月、査読なし。
- ④ Takekoshi, M nako(2009)「Cantonese Teaching Materials in the Early 20th Century in Japan (20世紀初頭の日本刊行広東語教科書)」,『第13回国際粵方言研討會論文集』(香港:香港城市大学) 261-270頁(総10頁)平成21年11月、査読有。
- ⑤ Takekoshi, M nako(2009)「Classifiers and Linking Particles in Cantonese (広東語の類別詞と構造助詞)」,『チュラー日本語学シンポジウム論文集』(東京:東京外国語大学) 313-320頁(総8頁)平成21年1月、査読なし。

[学会発表] (計6件)

- ① 竹越美奈子「粵語歴史文獻研究概観」清代民国時期漢語國際學術研討會(韓国:鮮文大学校),平成22年5月2日。
- ② 竹越美奈子「粵語結構助詞[Ti]的歷史演變」清代民国時期漢語國際學術研討會(韓国:鮮文大学校),平成22年5月2日。

- ③ Takekoshi, Minako 「Some Grammatical Features of Cantonese Texts in the Early 20th Century in Japan (20世紀初頭日本刊行広東語教科書の文法的特徴)」第18回国際中国言語学会年次総会(アメリカ:ハーバード大学), 平成22年5月20日.
- ④ Takekoshi, Minako 「The Historical Change of [Ti] in Early Cantonese Texts (早期粵語資料における“啲”の歴史的变化)」第17回国際中国語言学学会年次総会、歴史言語学方言分科会(フランス: フランス高等社会科学院)平成21年7月4日.
- ⑤ Takekoshi, Minako 「Cantonese Teaching Materials in the Early 20th Century in Japan (20世紀初頭の日本刊行広東語教科書)」, 第13回国際粵方言研討会(香港: 香港城市大学)平成20年12月19日.

[図書] (計1件)

- ① 竹越美奈子 『早期粵語研究1 早期粵語文献目録(稿)』平成20-22年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書.

[その他]

文献目録

- ① 竹越美奈子編(2010) 「粵語早期文献資料」『清代民国時期漢語研究文献目録(稿)』(韓国牙山: 鮮文大学校中韓翻訳文献研究所) 255-267頁(総13頁).
- ② 竹越美奈子編(2011) 「早期粵語文献目録(稿)」『早期粵語研究1』5-50頁(総46頁).

翻訳

- ① 竹越美奈子 訳(2010) 「Cantonese Primer(8) (粵語入門 8)」『開篇』(東京: 好文出版)Vol. 29. 339-343頁(総5頁)平成22年9月.
- ② 竹越美奈子 訳(2009) 「Cantonese Primer(7) (粵語入門 7)」『開篇』(東京: 好文出版)Vol. 28. 236-241頁(総6頁)平成21年4月.
- ③ 竹越美奈子 訳(2008) 「Cantonese Primer(6) (粵語入門 6)」『開篇』(東京: 好文出版)Vol. 27. 263-274頁(総12頁)平成20年4月.

研究ノート

- ① 竹越美奈子 (2009) 「J. Dyer Ball 著『Cantonese Made Easy』各版本の異同一“個”と“的”を中心に--」『東邦学誌』38(3): 115-126 頁 (総12

頁) . ([http://www.aichi-toho.ac.jp/outline/files/200912003802\\_09.pdf](http://www.aichi-toho.ac.jp/outline/files/200912003802_09.pdf))

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹越 美奈子 (TAKEKOSHI MINAKO)

愛知東邦大学

研究者番号: 50340401